

はじめに

技術研究所 所長 八ツ繁 公一

近年、地震や台風、集中豪雨により被災される事例が急増しています。そして、災害のたびに新しい警鐘が発せられています。本号にはこれらの自然災害に関する報告は記載されておられません。研究機関として力の無さを申し訳なく思っています。しかし、安全と安心を構築する業界の一員として、団体内外の研究組織への委員の派遣ならびに協力支援は率先して行っております。また、企業としての緊急時への対応準備はもれなく行き渡っていると確信しています。

新たな災害が無くなること、ならびに、被災された方々の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本年度は弊社に取りまして第5次中期計画の最終年度となります。技術力で高い付加価値を創造し社会に貢献したい。そのためには、全社員がそれぞれの分野で専門家としてのカテゴリNo.1を目指す。特に、重点技術開発目標として「プレキャスト」、「集合住宅」、「クリーンルーム」の3つのカテゴリを特化して我が社の強みを出そうというものです。本号に掲載された論文の中には、これらの活動の成果も含まれています。

技術情報の発信において、最も大切なことは情報の正確さであることは言うまでもありません。更にお客様が何を欲しているかを的確に把握し、これを判りやすい言葉と表現でお伝えすることも発信する側の大切な使命と考えます。本号には、技研内の施設の性能紹介も含まれております。これらの施設は、近い将来において新しい研究成果が期待される一方で、現在の施設自体としても、お客様へ安藤建設が提案する機能空間の具体事例として体験していただけるものでもあります。これらの施設のご紹介から、また、お客様から戴きます問題の提起から、新たなテーマへと展開することが理想的と考えます。

本号で報告します性能紹介が皆様のご関心を喚起することを期待しております。

技術研究所報は研究活動の情報発信源として、また、皆様方からいただきましたご指導へのお礼としてお届けしたいと思えます。

皆様方のご指導とご協力をお願い致します。

2005年10月